
俺いや、僕は

ハヤシ酉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺いや、僕は

【Nコード】

N9404X

【作者名】

ハヤシ酉

【あらすじ】

俺いや、僕は少女に恋をした

俺は桜が舞う丘で寝転んでいた。

高校をサボっていた。

毎日、ここでサボっていた

理由は、俺に居場所がないからだ。

学校ではいじめに合い、家では親との不仲

だから俺はついに決心し、家を出て野宿ですごしている。

場所は町からそんなに離れておらず、なおかつ警官が見に来ない
ここで過ごしていた。

衣服の類は家から何枚か持ってきていたので、それを近くの川で
洗濯しながらつかった

食べ物も百円ショップで調達した。

お金の類は家を出る前に大量のバイトでためた大金がある

しかし、俺の体は痩せ細っていた。

そしてその日、俺は倒れた

次に起きたとき、だれかの家だった

病院じゃないと思った理由は、薬品のおいがしないからと勉強道具一式が机に乗っていたからだ

急に扉が開いた

「あ、おきたんだ」

と少女がこちらを覗き込む

一瞬ドキツとしてしまった。

「大丈夫？食欲はある？」

なるべく大丈夫そうに答えた

「そう、よかった。はいこれ、お粥。食べて」

お粥のはいった器を差し出された。

俺はそれを受け取り、一口食べた

それは俺が久しぶりに食べた人の温かみのある食べ物だった。

それをゆっくり食べながら名も知らない親切な少女とたあいのない話をした。

それをしてるうちに俺、いや僕の中から水が落ちていった。

そして名も知らない少女に、今まであつてつらかった事を打ち明

けて泣いていた。

その少女は僕のことを優しく抱擁ほつようし、「つらかったんだね」と言った

そして僕が泣き止むまで抱擁し続けてくれた。

その後その少女とまた、たあいのない話をした。

その日、僕は家に帰った。

僕はその後もその少女に会いに行った

その少女にアドバイスのおかげか、僕は親と仲直りをし、学校にも通うようになった。

しかし僕が学校に行くようになってから、その少女と会うことはなくなった。

そして僕はまた桜が舞っていた丘に行った。

そこには、その少女がいた。

一人、木の下で座っていた。

そして僕は、その少女とたあいのない話をした

僕は決心しその少女に言った

いままで、助けてありがとう。

そして、僕は君が好きだと

その後二人の少年少女が、今は青々と茂った桜の木の下で
キスを交わした。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9404x/>

俺いや、僕は

2011年10月26日08時14分発行